

「経済学」
 「経営学」
 はこう学べ。

「新しい世界への入り口に立った君へ」

授業に出る

経営学や経済学は皆さんにとって新しい学問の世界です。だから授業が分からなくて当然です。初めは分からなくても、そのうちに大体分かるようになってきます。経営学の授業では、大事なことは何度も出てきます。一つの授業だけでなく、いくつもの授業で出てきます。

人間は、場面毎にまとめて知識を記憶するようにできています。場面毎に、出てくる知識は大体決まっています。駅の切符売り場で「東京まで一枚」と言っても、「バナナ一本」とは言いません。大学の授業も同じです。出てくる用語や概念は、それに特有なもので、初めての人には馴染みがないから分からないだけ。耳で聞いて、目で見て、手で書いて、少しずつ憶えて行くと、関連性を理解することができるようになります。

でももっといい授業の受け方とか、ノートの取り方とかあるといいですね。だから勉強のノウハウ本を読みましょう。私のお勧めは、森靖雄著『大学生の学習テクニク』（大月書店）です。ルーズリーフを半分に分ける方法は私も試してみました。本に載っていることを全部やってみる必要はありませんが、いいなと思っただり方は自分でも試してみましょう。書店には様々な学習ノウハウ本がならんでいます。自分の気に入った本を買きましょう。

企業小説を読む

経営学が主な対象とする企業の中で何がどんなふうに起こっているのか、経験がなければ分かりません。でもそういう経験があると授業での話が分かりやすくなります。そういうときには企業小説を読んでもみましょう。

企業小説は企業を舞台に人々が活躍します。その中には企業経営に深く関わる言葉や概念、考え方、さらには専門の研究成果も使われます。その上で、読者が興味を持って読み進められるような工夫が随所に込められています。それは、企業小説は娯楽（エンターテインメント）小説として書かれることが多いからです。様々な人間模様、危機によるはらばらどきどきと成功の高揚感など、読者が物語世界に入り込みやすく工夫されています。ですから、様々な知識が比較的すんなりと頭の中に入ってきます。

さて私のお勧めは、安土敏著『小説スーパーマーケット』（講談社文庫）です。著者は長らく中堅スーパーマーケット・チェーンの経営者を務めている方で、その経験をふまえて書かれているだけに、私が授業で習ったようなことが沢山出てくるし、読み物としても面白くて一気に読めてしまいました。この小説は映画『スーパードール』の原作であることも知られています。

ただし企業小説は事実を元に書かれていても、工



ンターテインメントとして効果を高めるために、多少の嘘や推測が混ぜられています。企業小説を読むのは楽しく予備知識を仕入れるためで、教科書や専門書が不可欠であると肝に銘じましょう。

入門書を読む

ここは大学ですから専門的な本を読んでいただきたいものです。しかしいきなりは難しい。だから入門書を読みましょう。「○○入門」と書いてあったりなかったりします。新書判や文庫判でも数多く出されてもいます。いくつか挙げてみましょう。

まず読んでみたいのは、別冊宝島編集部編『わかりたいあなたのための経営学・入門』（別冊宝島）は、経営学の中の様々な分野のトップ研究者が、自分のやっている分野について解説してくれます。結構幅広い経営学の中にはどんなものがあるか分かります。

経営組織論については、金井壽宏著『経営組織』（日経文庫）と、沼上幹著『組織戦略の考え方』（ちくま新書）の二冊を読んでみましょう。

経営戦略論については、加護野忠男著『競争優位のシステム』（PHP新書）を先ず読んでみましょう。コンビニエンス・ストアに代表される、情報を活用する経営がなぜ強くなれるのかがよく分かります。



TETSU FUJIMOTO

藤本 哲

経済学部助教授。
1998年神戸大学大学院経営学研究科博士課程後期課程修了。博士（経営学）。1997年奈良産業大学経済学部経営学科講師。1999年同経営学部経営学科助教授。2003年4月より現職。中高生の頃はコンピュータの世界に進みたいと考えていたが、数学と物理ができなくて浪人。仕方なく入った経営学部で光が見えた。

人の話を聞く

会計学分野やマーケティング分野などは、どんな入門書があるか、担当の先生に直接尋ねてみましょう。

いちばんお勧めしたい方法が、人の話を聞くことです。身近にいる仕事をしている人に、その人の仕事について話を聞いてみましょう。初めて会社に入った頃のこと、大きな仕事を達成したときのこと、失敗してしまったときのこと、一人前になれたと思えたのはいつか、仲間とのつきあい、部下をもつということ、業界のこと、などなど、まずは家族や親戚の人に聞いてみましょう。企業小説も楽しいですが、生身の人間の実際の経験を聞くことほど、面白く、納得させられることはありません。「事実は小説より奇なり」です。

ある人の経験でうまくいったやり方が、他の人にとっても、他の場合でも、同様にうまく行くとはい限りませんが、参考になることは確かです。大学を出た、その先の世界を少しのぞいてみましょう。